

**久保田 晋平さん（西福岡高校 商業科 昭和 55 年卒）****現在：のこのしまアイランドパーク代表取締役社長**

福岡講倫館高校の前身である西福岡高校を卒業され、現在、のこのしまアイランドパーク代表取締役社長を務めておられ、本校同窓会樟風会副会長をされています。ご息女は福岡講倫館 1 期生で本校 PTA 会長を務めていただいたこともあり、本校にとってもご縁の深い方です。

「広い世界を見られたことが人生経験上よかった」と、アメリカへ留学された話を語っていただきました。久保田さんは高校を卒業したら家業を継ぐから簿記ができればいいと考えていた時に、「大学 4 年間か、アメリカ留学 2 年間のどちらがいいか」と父親から言われ、アメリカの方が面白いと留学を決められたそうです。留学手続きを代行するようなサービスはなく、ご自身で領事館に学生ビザを取りに行き、カリフォルニアに留学された話は、一つひとつが「それはどういう状況ですか？」と伺いたくなることばかり。住まい探しの顛末や訴訟騒動の話をされたので、「英語が話せるようになった後に、留学されたのですか」と尋ねてみると、返ってきた言葉は、「高校まで英語は大嫌いだった。3 月に高校を卒業して 9 月にアメリカへ行くまで英語の勉強をせず、家業の繁忙期を手伝って働いていた」でした。現地で、英語を聞き慣れるのに 1 年かかったそうで、高校を卒業して一年以内に起こる出来事としては想像をはるかに超えた光景が思い浮かび驚愕しました。

また、東京ディズニーランドのオープニングスタッフとして働かれた話も語っていただきました。アメリカへ留学していた時に楽しいと感じたディズニーランドが日本にできるなら、そこで働きたいと思い、実際に採用されるまでのチャレンジや、エレクトリカルパレード（新規事業）立ち上げに関わられるに至った話からも、前向きで積極的な姿が強く印象に残りました。

そんな久保田さんに、「高校生の時から積極的に生徒会などに取り組まれていたのでしょうか？」と伺ったところ、「ちょっと一歩後ろの方が居心地よく感じるのは、今も昔も変わらない」とのこと。では、いろいろな役職等をされているのはなぜ？と伺ったところ、自分から手を挙げる方ではないが、やれない理由を述べる代わりに、何でもポジティブに「やってみよう」と引き受けてやってみることで違う世界が見えてきて、知恵の引き出しが増えてきたことを語っていただきました。

「体験・経験が次のことに生きてくる。失敗した経験から、同じことを次はしないように努めていく。安全な道はない。願って失敗しようとしているわけではない。何もしなかったら失敗もないけれど、どう対処するのか、どうリカバリーできるのか、適応能力を養うことはできない。高校生の段階で何でもできることはあり得ないから、できないことを恥じることはない。道を歩き始める前に立ち止まると、何も始まらない。歩き始めて、小さな失敗の段階で、軌道修正していけばいい。少しずつトライしながら、経験値を増やしていくという考えで、面白い方がいいよね」と、久保田さんは取り組んでこられたそうです。

「同じ道を毎日通るよりも、ちょっと違う道があれば通ってみると面白いことがあるかもしれないと考える自分のような生き方以外にもいろいろあるから…、誰かの役に立つのならいいね」とインタビューにご協力いただきました。